

特定非営利活動法人
日本ボランティアコーディネーター協会
**ボランティアコーディネーション力検定
合格者調査**

調査対象	検定合格者1,449人のうち Eメールアドレスを保有する者
サンプル数	1,115人
回答者数	228人（回答率：20.4%）
調査方法	Eメールにより調査協力をお願いし、 WEB上の調査フォームに回答を入力し、 返信。
調査期間	2013年1月31日～2月6日

特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会では、2009年度にボランティアコーディネーション力3級検定開始して以降、現在までの合格者1449人のうちEメールによる依頼が可能な方を対象に、検定合格後の状況を何う調査を行いました。

回答にご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

ここでは調査結果から、主な項目を抜粋してご報告いたします。

サンプル数は1,115人。回答数は**228人**、回答率は**20.4%**でした。調査の方法は、Eメールにより調査依頼を行ない、WEB上の調査票と回答フォームに入力し、返信いただきました。期間は**2013年1月31日～2月6日の1週間**です。

【調査の目的】

この調査は、合格者が本検定を受験するに至った動機や、合格後の変化などを把握することによって、検定システムの改善に活かすとともに、検定の効果を社会的にPRすること。これにより、検定システムを幅広く浸透させていくとともに、合格者の社会的な信頼を高めることを目的に実施しました。

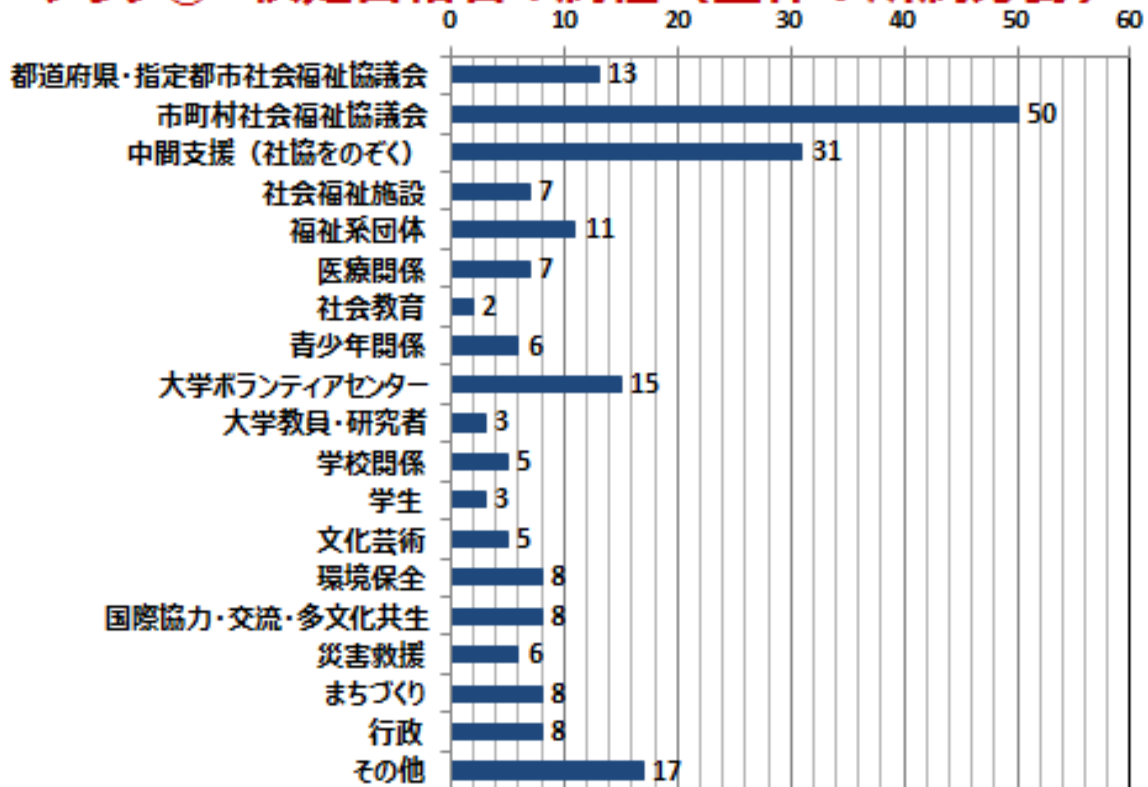
表 1 : 級別の回答者数

	1級の合格者	2級までの合格者	3級までの合格者
実数	21人	200人	1,228人
調査回答者数	13人	55人	160人
割合	61.9%	27.5%	13.0%

表 1 は、取得級別の回答者の数と割合を示したものです。

1 級は 6 割強、2 級は 3 割弱、3 級については 2 0 0 9 年後合格者までさかのぼりましたので、回答率はあまり良い数字ではありませんでした。

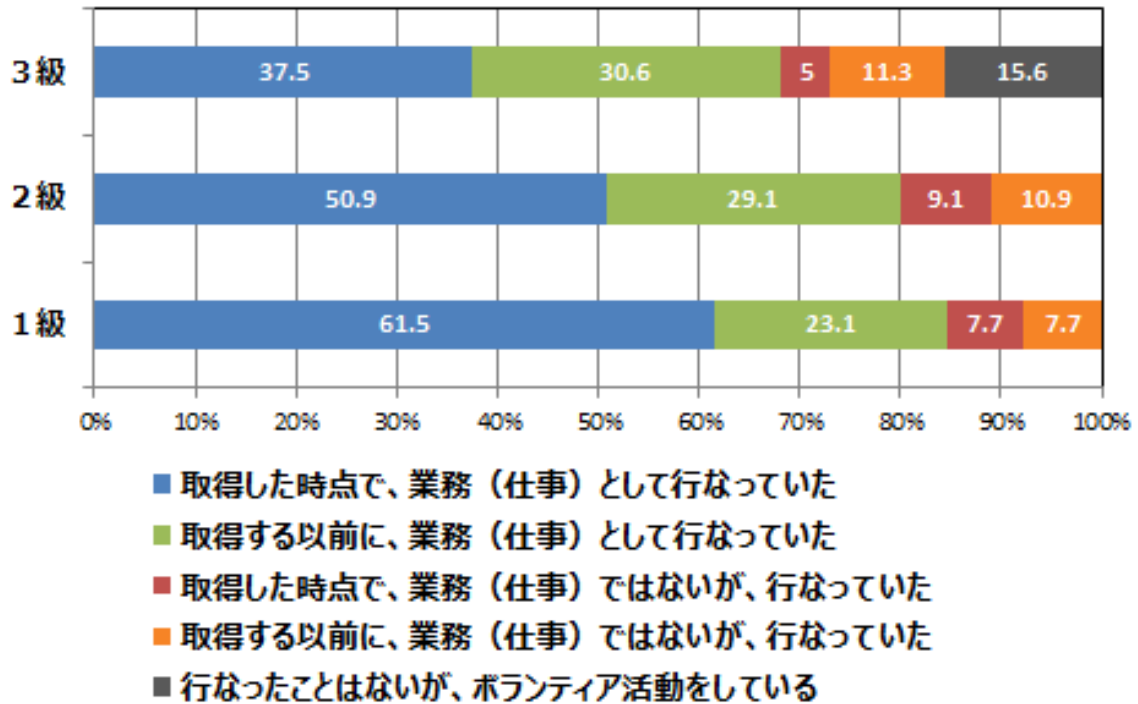
グラフ① 検定合格者の属性（全体：所属分野）



グラフ①は回答してくれた合格者の属性ですが、所属の分野あるいは組織として、**もっとも多いのが市町村社会福祉協議会**、つぎに**社会福祉協議会以外の中間支援**、たとえば、市民活動支援やN P Oサポートセンター、ボランティア協会などのスタッフの方々です。さらに、大学ボランティアセンターと続きます。

上位を占める所属の傾向からは、幅広い分野の情報提供や活動の開拓などを求められる業務を担う中間支援的な組織で仕事をしている人の受験が多いことがわかりました。

グラフ② 取得級とボランティアコーディネーションとの関わり

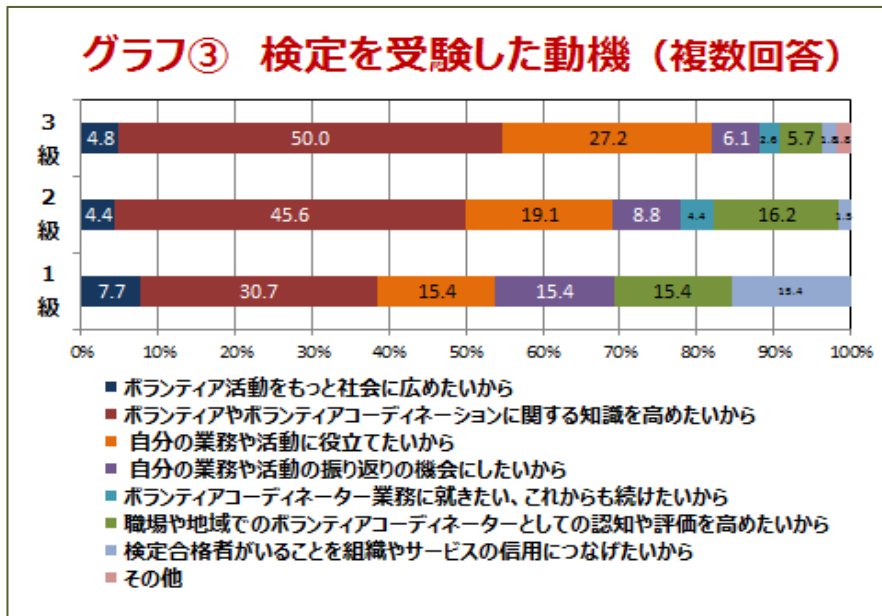


つぎにグラフ②です。取得している級と受験した時点でのボランティアコーディネーションとの関わりについて伺いました。

青と緑の部分が業務（しごと）としてボランティアコーディネーションを行っていた方、赤とオレンジの部分は業務ではなくボランティアコーディネーションを行っていた方々です。ちなみに3級のグレーはボランティア活動経験のみの方。2級以上はコーディネーション経験が受験条件になっていますので、2級と1級のこの部分はゼロになります。

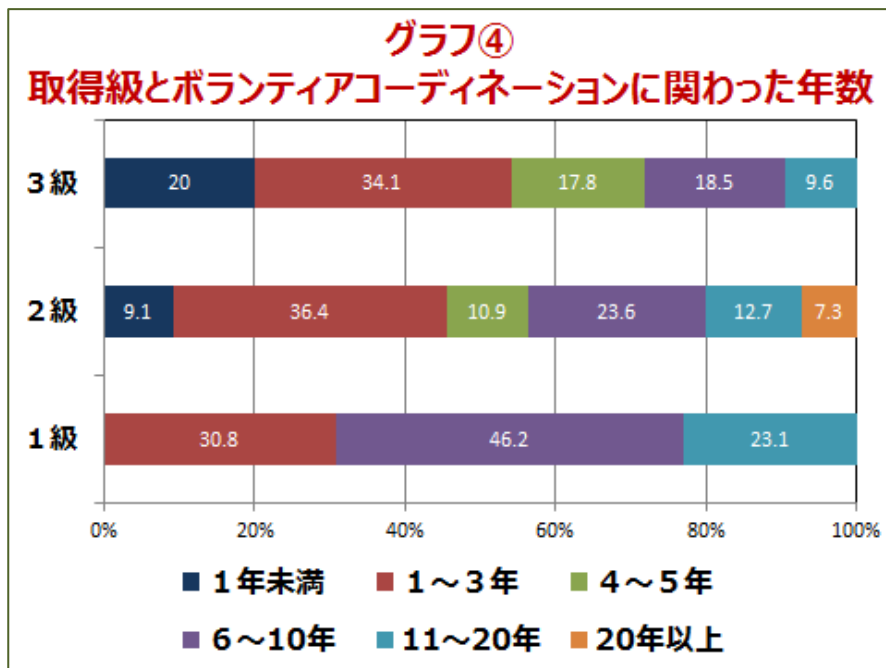
グラフに示したように、級が上がるほど、業務（しごと）でボランティアコーディネーションを行っている、あるいは行っていた人の数が増えていることがわかります。3級では7割弱、2級は8割、そして1級になると8割5分まで増加します。





グラフ③は検定を受験した動機です。調査では各自第1位から3位までを選択していただきましたが、各級の第1位に選ばれた項目で比較してみます。

共通してもっとも多かったのが、「ボランティアやボランティアコーディネーションに関する知識を高めたいから」で、3級合格者では5割を占めています。つぎに「自分の業務や活動に役立てたいから」が続きますが、級が上がるにしたがって、ボランティアコーディネーターとしての認知や評価を高めたい、合格者がいることを組織やサービスの信用につなげたいなどの回答が増加します。



グラフ④で、ボランティアコーディネーションに関わった年数と取得級の間関係を見てみます。

1級では1年未満の方はゼロ、7割弱が6年以上の経験者です。級が上がるにつれて、経験年数が長くなっていることがわかります。

検定合格後の変化の有無



ここからは今回の調査の主たる目的である、検定合格後の変化について見てみましょう。

(ここからはすべて複数回答です)

表2 あなた自身×取得級

選択肢 (複数回答)	1級	2級	3級	合計
①ボランティア (活動) の社会的意義について再認識できた	9 69.2%	37 67.3%	114 71.3%	160 70.2%
②ボランティアコーディネーション業務 (活動) の重要性を再認識できた	10 76.9%	44 80.0%	102 63.8%	156 68.4%
③自分の仕事 (活動) について客観的に整理することができた	12 92.3%	34 61.8%	87 54.4%	133 58.3%
④自分自身の仕事 (活動) を改善・発展させる意欲が高まった	8 61.5%	35 63.6%	73 45.6%	116 50.9%
⑤堂々とボランティアコーディネーターと名乗れるようになった	6 46.2%	14 25.5%	20 12.5%	40 17.5%
⑥その他	1 7.7%	5 9.1%	4 2.5%	10 4.4%
⑦特になし	0 0.0%	1 1.8%	8 5.0%	9 3.9%

表2は、合格者自身の中にどのような変化が起きたのかと取得級をクロス集計したものです。

1級合格者で最も多いのが「③自分に仕事 (活動) について客観的に整理することができた」で、9割以上。2級では「ボランティアコーディネーション業務 (活動) の重要性を再認識できた」が8割。3級は「ボランテ

ア (活動) の社会的意義について再認識できた」が7割強でもっとも多い回答でした。取得級によって違いがあることがわかります。

級が上がるにつれてもっとも大きく変化しているのが、薄いブルーの部分で「堂々とボランティアコーディネーターと名乗れるようになった」との回答です。3級12.5%→2級25.5%→そして1級46.2%と急上昇しています。

表3 あなたの仕事や活動×取得級

選択肢 (複数回答)	1級	2級	3級	合計
①他者にボランティアについて自信をもって説明できるようになった	6 46.2%	34 61.8%	69 43.1%	109 47.8%
②他者にボランティアコーディネーションの重要性について自信をもって説明できるようになった	7 53.8%	42 76.4%	65 40.6%	114 50.0%
③新しい層のボランティアを開拓することができた	2 15.9%	7 12.7%	11 6.9%	20 8.8%
④新たなボランティアプログラムの開発に取り組むことができた	1 7.7%	11 20.0%	14 8.8%	26 11.4%
⑤異なる分野のボランティアや団体とのネットワークを広げることができた	5 38.5%	18 32.7%	26 16.3%	49 21.5%
⑥災害時にボランティアコーディネーターとして活動する際に役立った	4 30.8%	8 14.5%	12 7.5%	24 10.5%
⑦職場 (団体) の業務 (活動) の改善につながった	4 30.8%	18 32.7%	30 18.8%	52 22.8%
⑧その他	2 15.9%	1 1.8%	7 4.4%	10 4.4%
⑨特になし	0 0.0%	2 3.6%	36 22.5%	38 16.7%

表3は、合格者の仕事や活動における変化を伺った設問です。

これは各級で比較的上位が共通していて、①他者にボランティアについて自信をもって説明できるようになった、②他者にボランティアコーディネーションの重要性について自信をもって説明できるようになった、と回答した方が第1位、第2位を占めています。

2級以上の合格者に見られる回答としては、⑤異なる分野のボランティアや団体とのネットワークを広げることができた、⑥災害時にボランティアコーディネーターとして活動することにつながった、⑦職場の業務改善につながった、と回答している割合が上昇します。

表4 職場（団体）での待遇×取得級

選択肢（複数回答）	1級	2級	3級	合計
①賃金が上がった	0 0.0%	1 1.8%	2 1.3%	3 1.3%
②ポジションがあがった（昇格や常勤化など）	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.4%
③ボランティアコーディネーション業務への関わりが増えた	1 7.7%	2 3.6%	16 10.0%	19 8.3%
④就職の際に有利になった （面接で評価されたなど）	1 7.7%	0 0.0%	1 0.6%	2 0.9%
⑤その他	2 15.9%	1 1.8%	3 1.9%	6 2.6%
⑥特になし	11 84.6%	51 92.7%	138 86.3%	200 87.7%

表4は、職場や団体での待遇が改善されたかどうかを問う設問です。

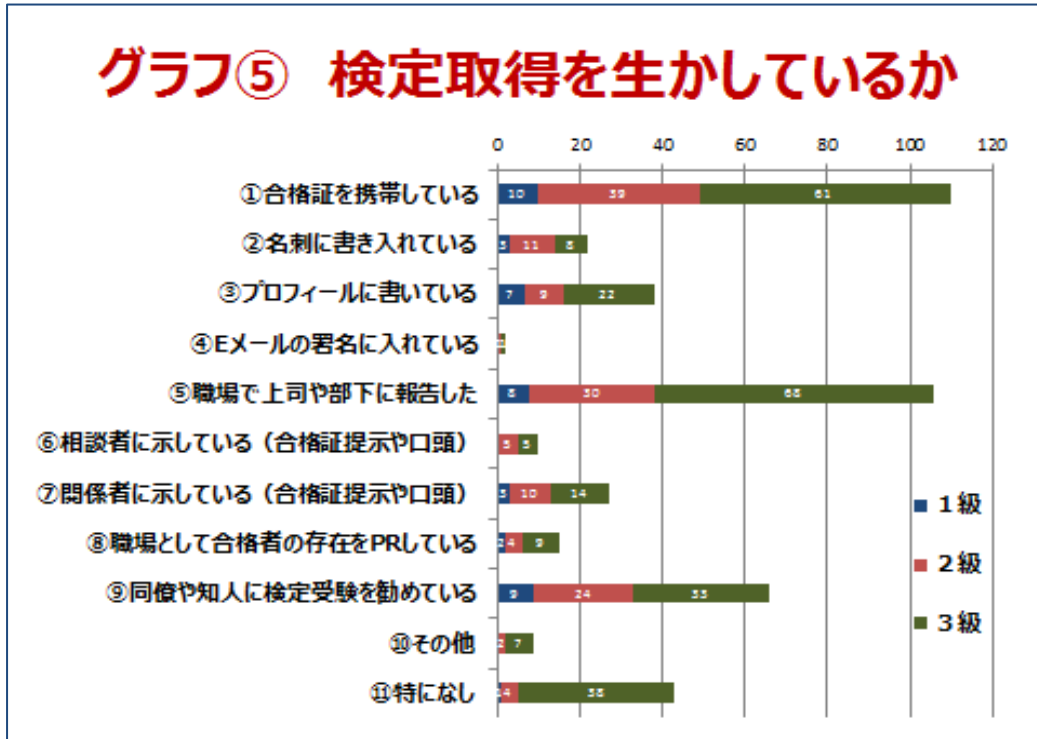
ご覧のとおり、3級合格者の1割が「ボランティアコーディネーション業務への関わりが増えた」と答えている以外は、ほとんどの方が「特になし」と回答しており、待遇改善までにはまだあまり影響を及ぼしていない状況が明らかになりました。

表5 職場や団体への影響×取得級

選択肢（複数回答）	1級	2級	3級	合計
①ボランティアコーディネーション（業務）についての 上司や同僚、部下の理解が深まった	6 46.2%	11 20.0%	27 16.9%	44 19.3%
②職場（団体）内でボランティアに関する 共通認識がもてるようになった	3 23.1%	10 18.2%	22 13.8%	35 15.4%
③ボランティアコーディネーション部門の強化が 図られた	1 7.7%	3 5.5%	10 6.3%	14 6.1%
④他のスタッフも検定を受験することになった	6 42.2%	19 34.5%	17 10.6%	42 18.4%
⑤新規職員採用の募集要綱に、検定取得に関する 記載が加わった	1 7.7%	0 0.0%	2 1.3%	3 1.3%
⑥他機関、団体からの信用の強化につながった	3 23.1%	9 16.4%	11 6.9%	23 10.1%
⑦事業受託の審査で有利になった	1 7.7%	1 1.8%	2 1.3%	4 1.8%
⑧その他	1 7.7%	4 7.3%	6 3.8%	11 4.8%
⑨特になし	3 23.1%	16 29.1%	97 60.6%	116 50.9%

表5は、もう少し幅広い職場や団体への影響を伺いました。

1級では「ボランティアコーディネーション業務についての上司や同僚、部下の理解が深まった」と「他のスタッフも検定を受験することになった」がもっとも多く、2級も他のスタッフの受験があがりました。一方、3級では「特になし」が6割を占め、職場や団体にまではあまり影響を及ぼしていないことがわかりました。



グラフ⑤は、あなたは本検定取得をどのように生かしていますか？という質問に対する回答です。もっとも多いのは①合格証を携帯している、2位が⑤職場で上司や部下に報告した、3位が⑨同僚や知人に検定受験を勧めていると続きます。

また、級が高くなるにしたがって、合格したことを相談者や関係者など対外的に示していることがわかりました。級別では、「特になし」という回答が3級合格者で目立つのが特徴です。

調査結果から



調査結果全体をふまえて、あらためて整理すると、

- 個人に対する影響や学びについては効果を示す数字と十分な自由記述が得られた。
- 一方、賃金アップや待遇改善の事例がみられたというトピックは少数あるが、検定合格による効果としては職場での待遇改善までには至っていない実情が明らかになった。
- 職場や団体への影響があった方々の回答では、職場でのボランティアコーディネーション業務への理解が高まった、ボランティアに関する共有認識が持てた、他のスタッフも検定を受験することになった、などの好ましい変化を認識している回答が上位を占めた。いい影響は徐々に出てきていることがわかる。
- そして、職場や団体への影響については、多くの選択肢において、級が上がるほど「ある」との回答が増加してくる。

下図は、ボランティアコーディネーション力検定の効果を、自己評価←→他者評価の縦軸と、個人にとって←→組織にとってのことなのかを横軸にとってみたものです。

今回実施した合格者調査からは、本検定が受験をされた皆さん個人の学びと振り返りの機会として効果を発揮していることは確認できました。さらに、まだほんの一部ではありますが「待遇改善」につながった例があること、そして組織内の人材育成のツールとして位置付け、受験を促している団体が複数あることもわかってきました。このようなことから現時点での検定の効果は図のオレンジ色の部分については大きな成果を上げているといえます。組織への働きかけや外部からの評価については今後の課題といえるでしょう。

